

5 - 1 東海・南関東地域の地震活動（1988年11月～1989年4月）

Seismic Activities in the Tokai and Southern Kanto Districts (November, 1988 - April, 1989)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

第1図(a)～(f)は、1988年11月～1989年4月までの東海・南関東地域における月別震央分布であり、第2図(a)・(b)は1988年11月～1989年1月と1989年2月～4月の3ヵ月間ごとの震央分布、第3図は1988年1月～12月までの1ヵ年間に於ける震央分布である。なお、震源の深さはいずれも90km以浅の地震についてのものである。

この期間、特に注目された地震活動としては、昨年12月28日～本年1月22日にかけて神津島近海で発生した群発地震（最大地震M4.7*・1月2日と1月9日）、本年2月19日の三重県中部の地震（M5.3*）と茨城県南西部の地震（M5.6*）、3月6日の銚子付近の地震（M5.9*）、4月26日の千葉県北部の地震（M5.3*）などであった。これらの地震活動についてはそれぞれ別項で述べる。各地の主な活動は次のとおりである。

<東海地域>

活動のパターンに特に大きな変化はない。しかし、昨年後半から、東海地震の想定震源域とその付近では、M3.0以上の地震発生が、9月4日のM3.3を除いてみられない。この詳細については別項で述べる。

目をひく主な地震は、東海沖の昨年11月5日のM3.4と18日のM3.3（遠州灘）・本年2月17日のM3.0（遠州灘）・3月29日のM3.1（はるか沖）・4月18日のM3.3（遠州灘）、愛知県の昨年11月29日のM3.4*（南部）・12月16日のM3.4（南部）と22日のM4.4*（中部）・本年1月4日のM3.3（西部）・4月11日のM3.7*（北部）と30日のM3.6*及びM3.4*（いずれも西部）、三重県の本年1月30日のM4.0*（北部）・2月19日のM5.3*（中部）・3月26日のM3.3（北部）などである。

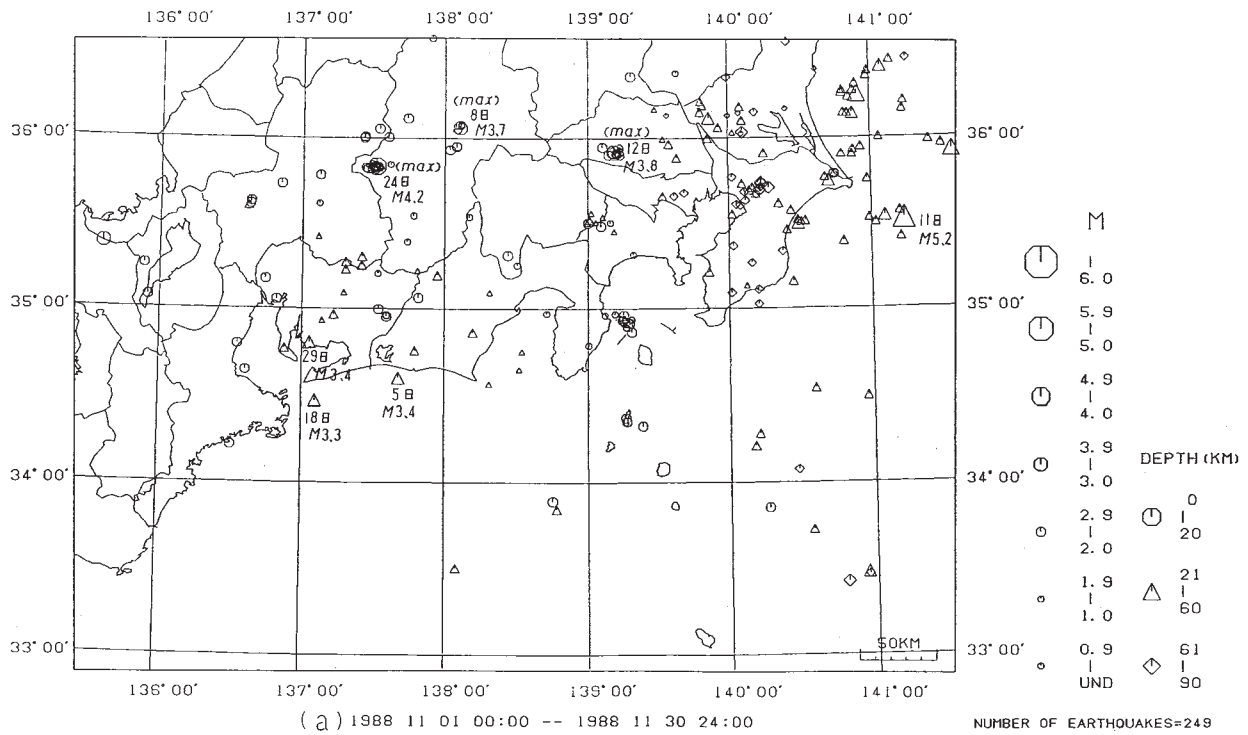
<東海地域周辺>

伊豆半島東方沖での群発地震活動はなく、この海域では比較的静かな状態が続いた。しかし、神津島近海（南西沖）では、昨年12月28日から本年1月22日にかけて、地震活動が活発化した。震源決定された地震は131個で最大地震はM4.7*（1月2日19時45分・1月9日12時15分）、有感地震は8個で震度の最大は2（5回）であった。

このほか、注目された主な地震（M5.0以上）は、昨年11月11日の千葉県東方沖のM5.2*、本年2月19日の茨城県南西部のM5.6*と5日の八丈島東北東沖のM5.6*、3月6日の銚子付近のM5.9*、4月26日の千葉県北部のM5.3*。また、目をひいたものとしては（M4.0以上）、昨年11月では24日の長野県西部のM4.2*、12月では16日の千葉県中部のM4.1*・28日の茨城県南西部のM4.3*・10日の八丈島東北東沖のM4.1*・3日の奈良県南部のM4.5*・13日の京都府南東部のM4.1*、本年1月では3日の千葉県東方沖のM4.7*・8日の茨城県沖のM4.6*・28日の茨城

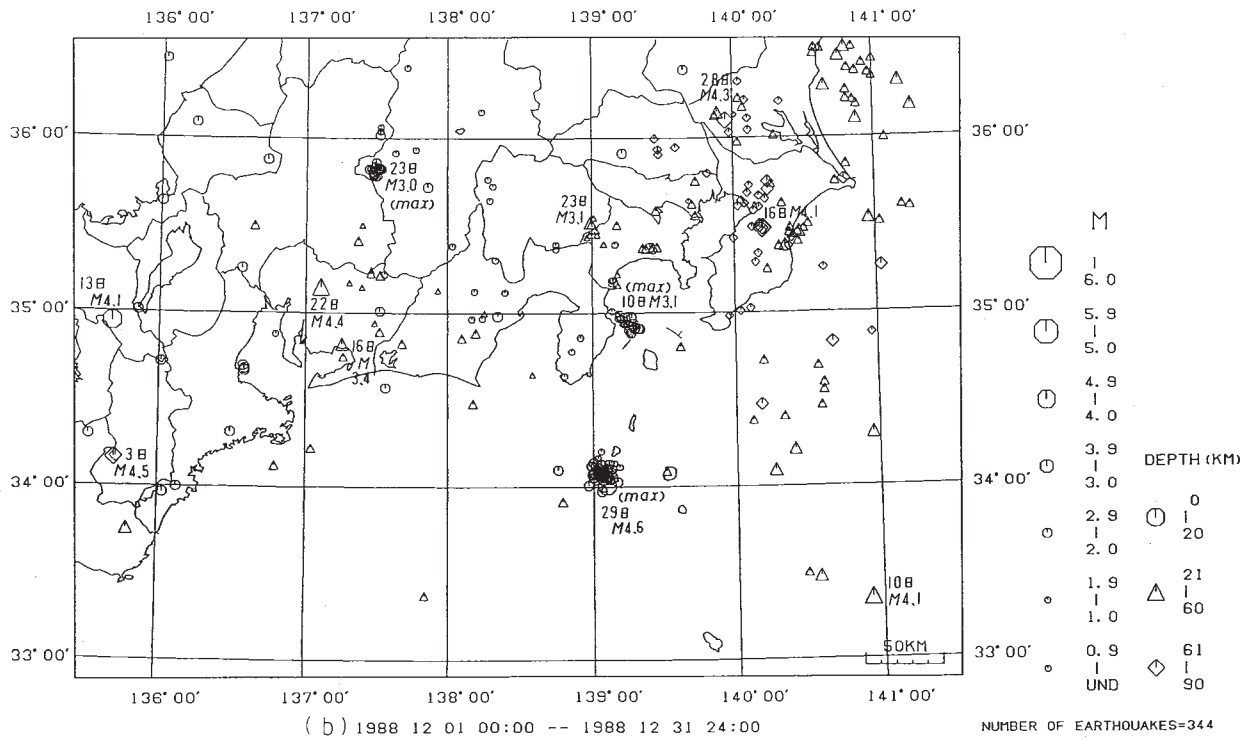
県沿岸付近の M4.4*，2月では28日の千葉県北部の M4.6*，3月では1日の新島北西沖の M4.4*・22日の勝浦付近の M4.0*・26日の千葉県北部の M4.3*・11日の茨城県南東部の M4.9*・10日の茨城県沖の M4.6*，4月では13日の銚子付近の M4.0・20日の房総半島南東沖の M4.1*・12日の茨城県南西部の M4.2*・23日の茨城県南部の M4.0* の地震などである。

注：M 値に*印を付した地震は，有感（気象官署）となった地震を表わす。



暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

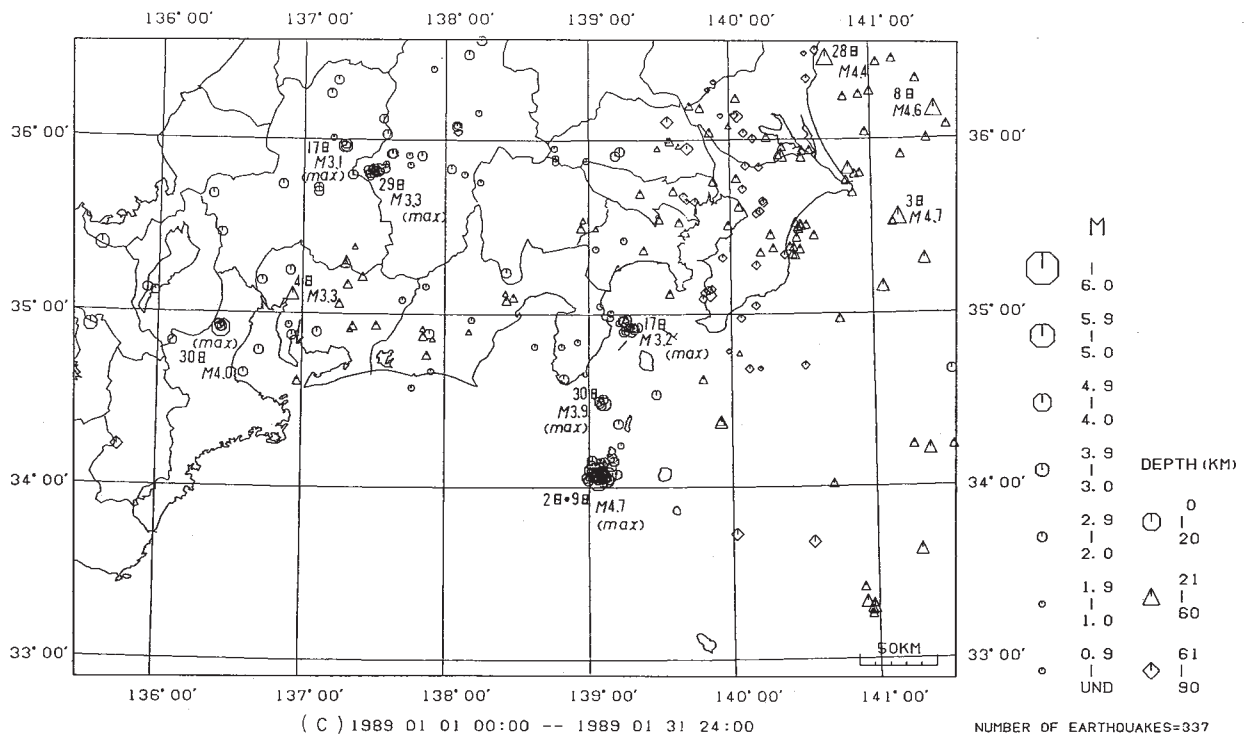


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

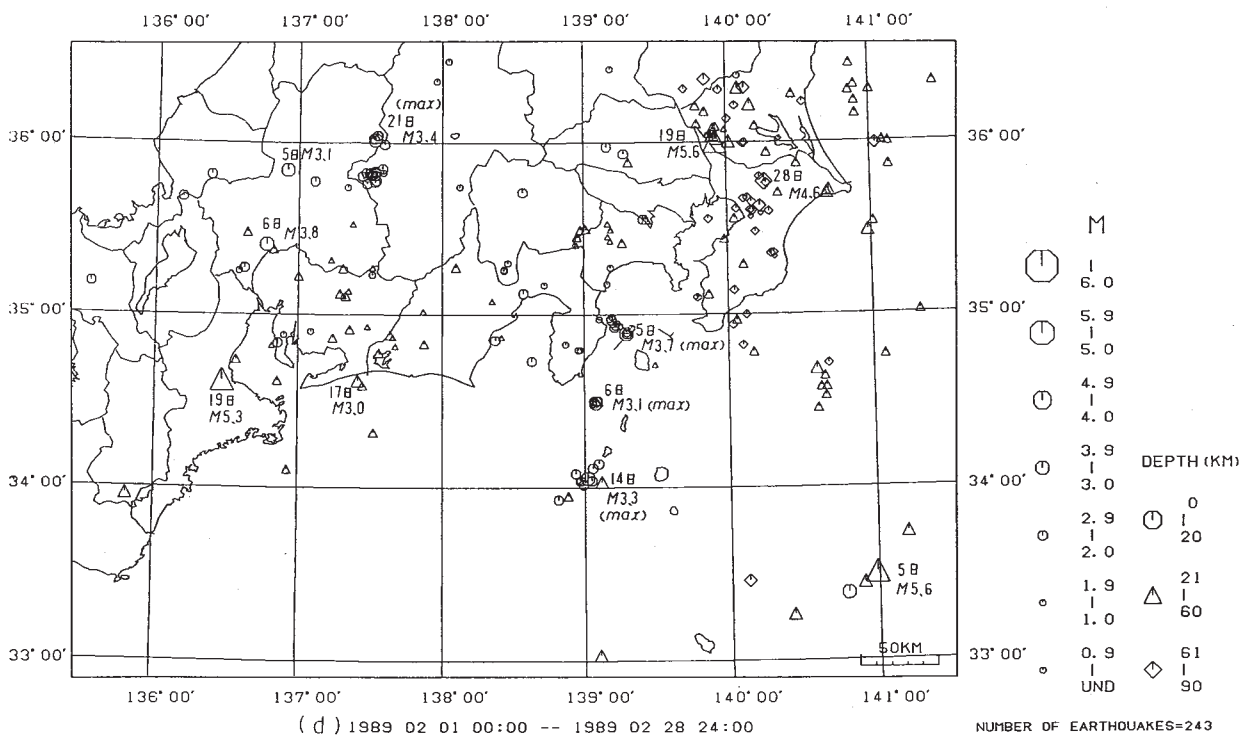
第1図 (a) ~ (f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布
(1988年11月~1989年4月)

Fig. 1 (a)-(f) Monthly distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, November, 1988 - April, 1989.



暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

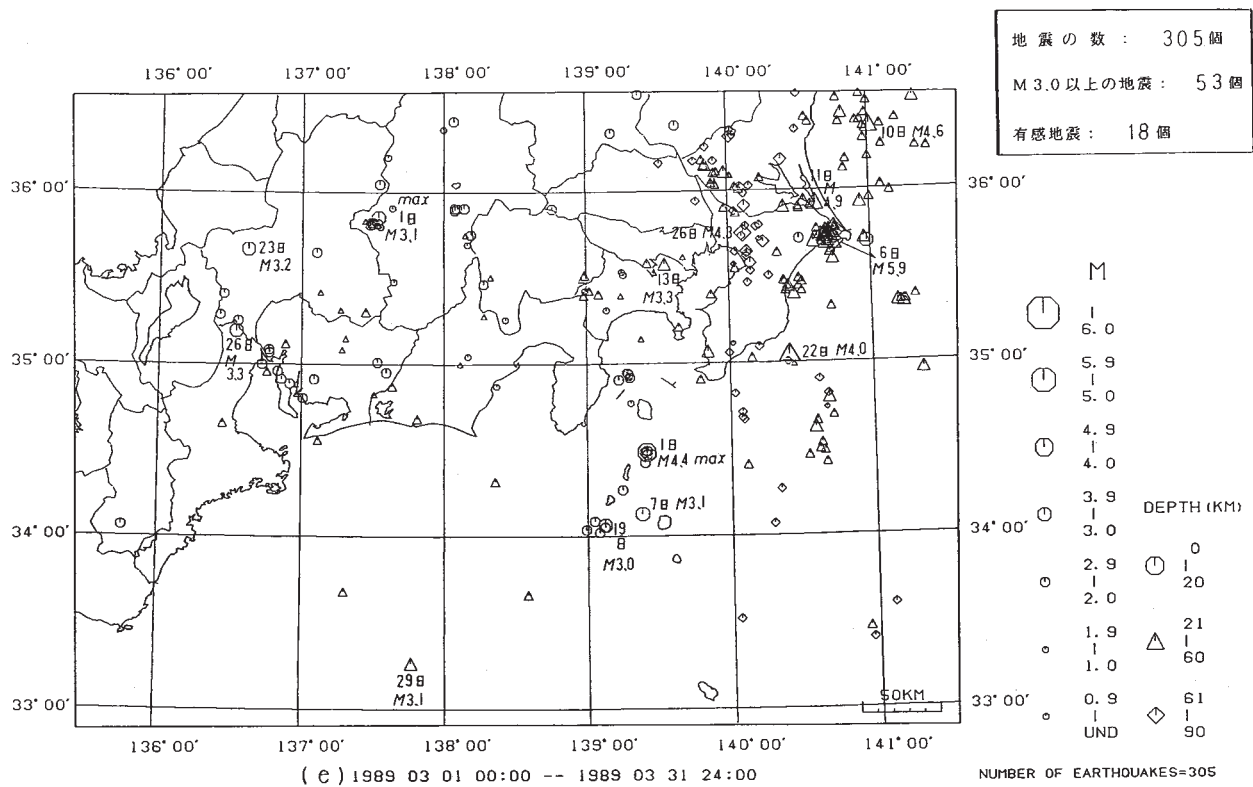


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

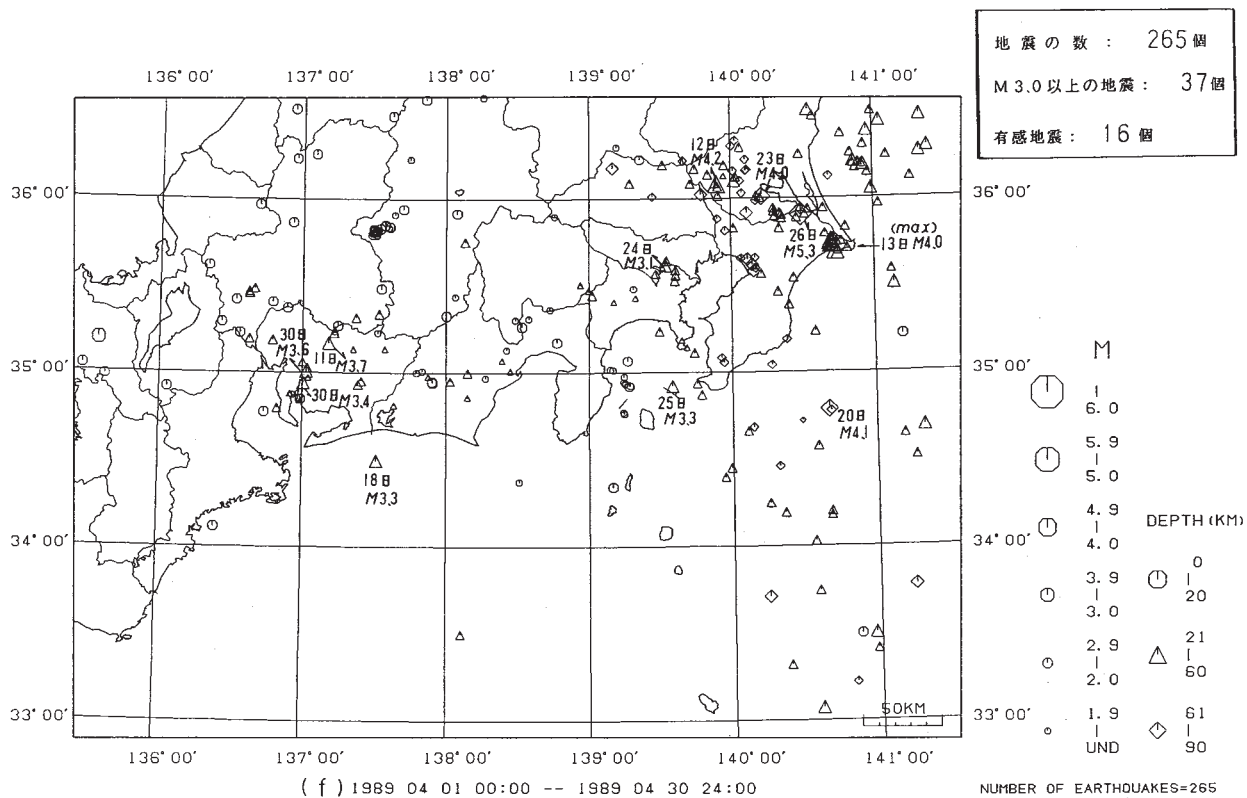
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

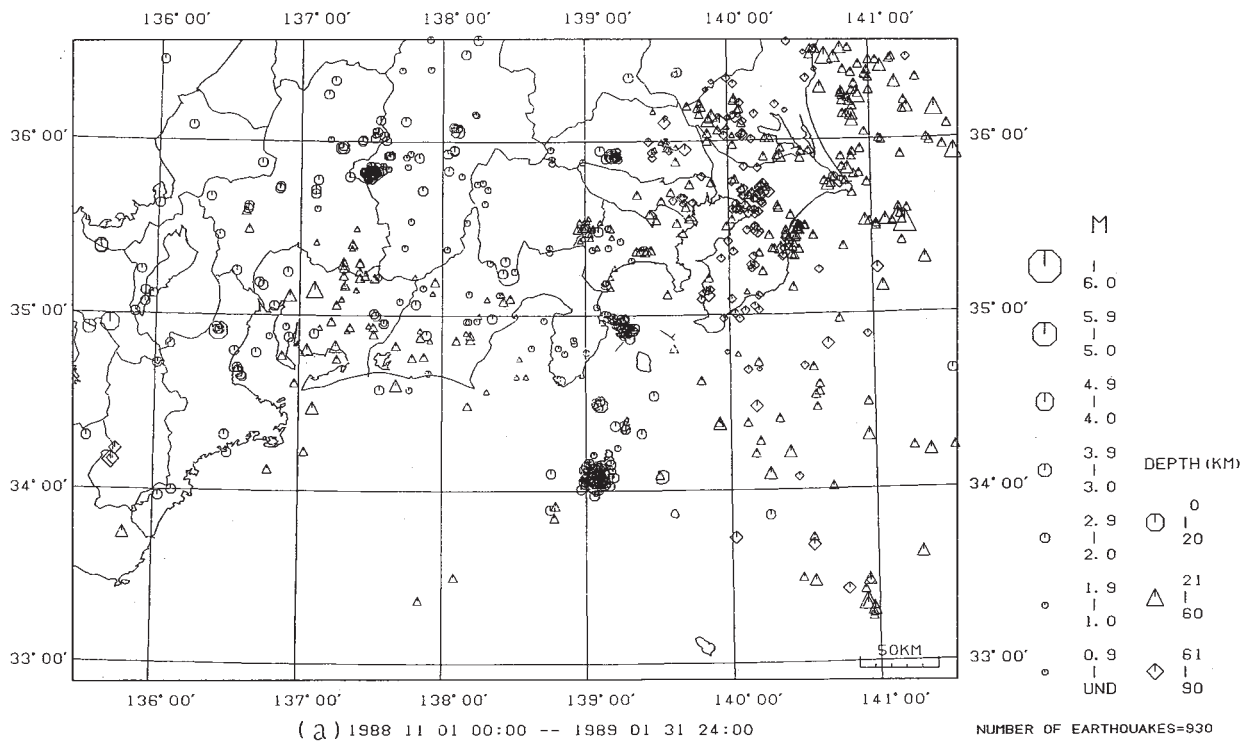


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

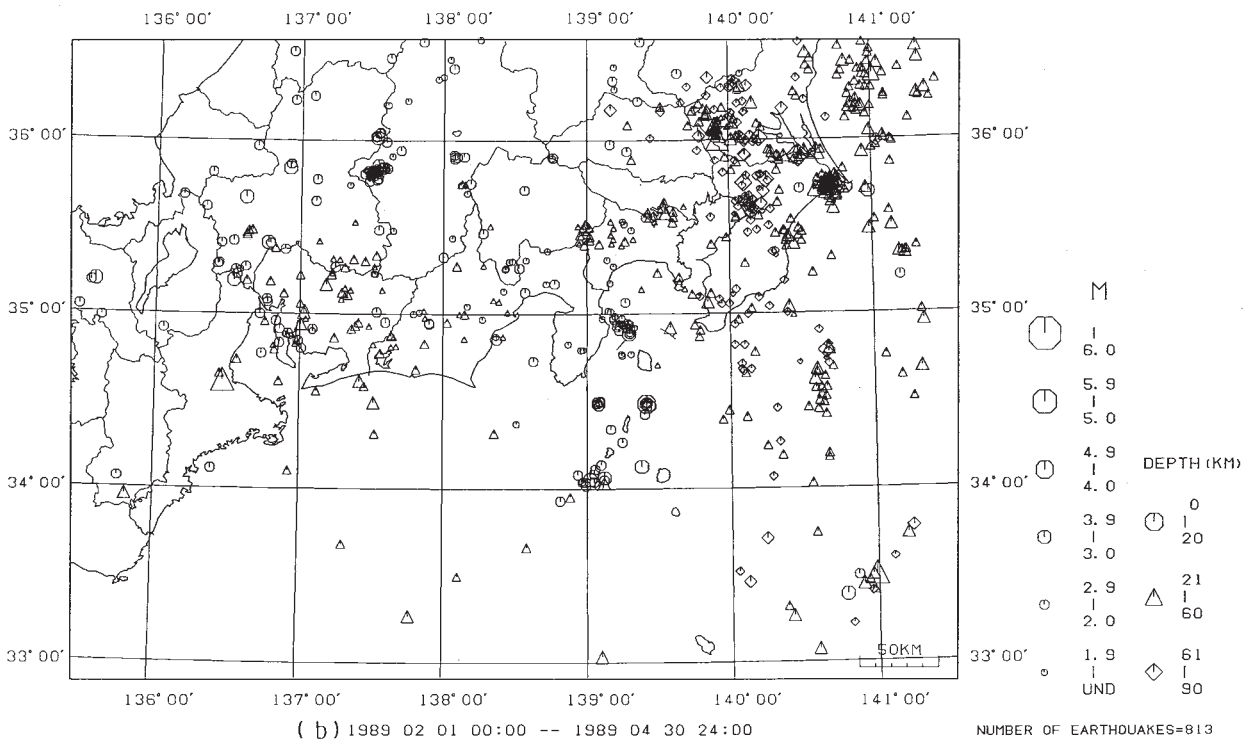
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

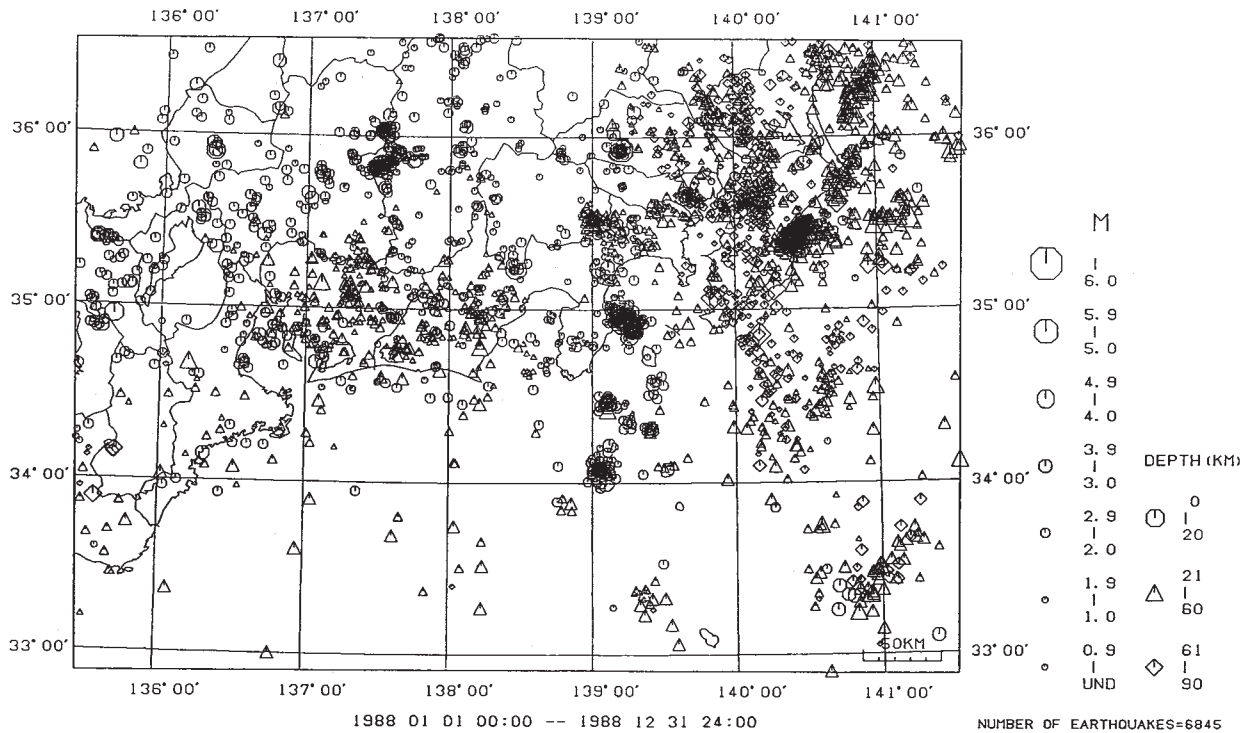


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第2図 (a)・(b) 1988年11月～1989年1月および1989年2月～4月の3ヵ月間の東海・南関東地震に発生した地震の震央分布

Fig. 2 (a), (b) Distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts in the periods of November, 1988 - January, 1989 and February - April, 1989 respectively.



暫定：昭和63年 7月 - 昭和63年12月

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第3図 1988年1～12月の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, January - December, 1988.